

令和6年度春期 ネットワークスペシャリスト試験合格発表 分析コメント

(株) アイテック IT人材教育研究部 2024,7,4

4月21日(日)に行われた令和6年度春期の情報処理技術者試験について、応用情報技術者ほか高度系5試験の合格発表がありました。IPAから発表された得点分布など統計データの分析結果をもとにして、ネットワークスペシャリスト試験の分析コメントをお知らせします。

■ネットワークスペシャリスト試験 (NW)

[令和6年度春期 ネットワークスペシャリスト試験 統計情報]

応募者	16,085 人
受験者	11,089 人
合格者	1,704 人
合格率	15.4%

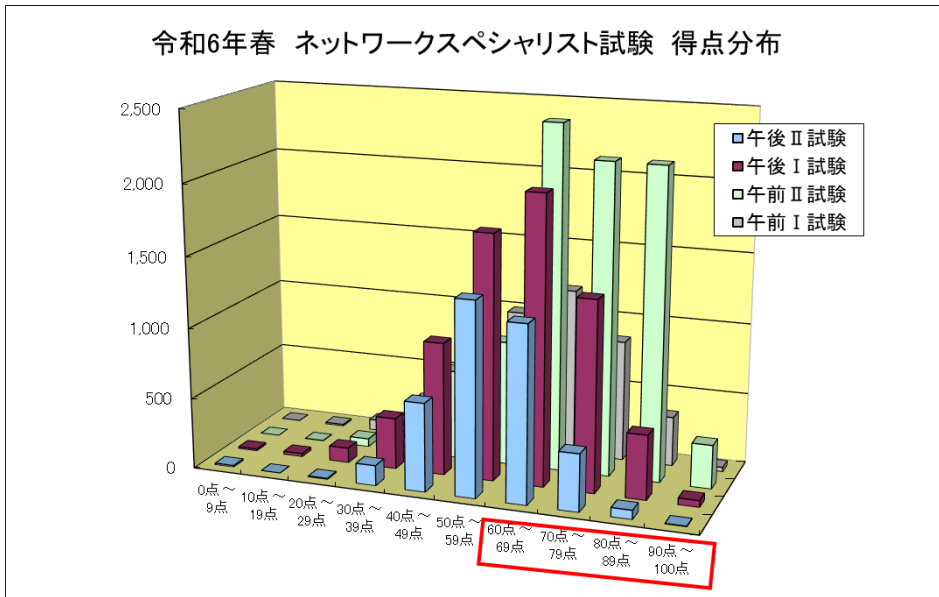
令和6年度春期のネットワークスペシャリスト試験の合格率は15.4%で、前回の14.3%に対して1%ほど増加しましたが、平成21年以降の現在の試験制度になってからは平均に近い合格率です。なお、前々回の令和4年度試験の合格率は17.4%で平成21年以降最高でした。

次に発表されたスコア分布の分析とグラフを示します。

[令和6年度春期 ネットワークスペシャリスト試験 スコア分布]

得点	午前Ⅰ試験	午前Ⅱ試験	午後Ⅰ試験	午後Ⅱ試験	合格者
0点～9点	1	0	13	11	
10点～19点	11	2	22	1	
20点～29点	76	57	105	7	
30点～39点	274	146	362	143	
40点～49点	681	630	935	622	
50点～59点	995	877	1,720	1,357	
60点～69点	1,187	2,414	2,013	1,234	
70点～79点	855	2,179	1,337	402	
80点～89点	350	2,176	454	64	
90点～100点	31	308	47	4	
計	4,461	8,789	7,008	3,845	1,704
対前試験比率		197.0%	79.7%	54.9%	44.3%
午前Ⅰ免除者(概数)	6,628	59.8%			

合格者数	1,704	採点者数の割合	合格者数との差
午前Ⅰ60点以上合計	2,423	54.3%	719
午前Ⅱ60点以上合計	7,077	80.5%	5,373
午後Ⅰ60点以上合計	3,851	55.0%	2,147
午後Ⅱ60点以上合計	1,704	44.3%	0



午前I試験免除で受験する人も増えてきましたが、得点分布を分析してみると、今回ネットワークスペシャリストの午前I試験免除者は概算で6,628人(59.8%)いて、約6割の受験者が午前IIからの受験となりました。ほぼこの比率で最近は推移しています。

午前I試験で基準点(60点)以上取れた人は2,423人(受験者の54.3%)で、前回の60.0%から5%以上減っています。問題自体は前回(令和5年秋)と比べて少し易しかったといえます。

午前II試験で基準点以上の人は7,077人(受験者の80.5%)となっており、こちらも前回の83.7%から少し減っています。

午後Iで基準点(60点)以上取れた人は採点者数の55.0%で、前回の41.7%から14%以上も増えました。出題された問題で難しい内容といえるものが例年より少なかったことが理由と思われます。

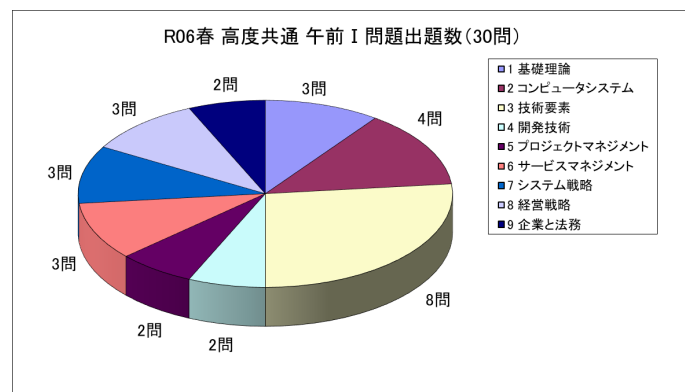
午後IIで基準点(60点)以上取れた人は採点者数の44.3%で、こちらは前回よりも6%減りました。出題された2問とも関連する技術の理解が必要な問題でした。

■令和6年度春期 ネットワークスペシャリスト試験の出題内容について

(午前I試験(高度試験の共通知識問題)) 30問出題/30問解答, 50分

高度試験で共通して出される午前I試験の30問は、従来どおり、すべて応用情報技術者試験(AP)の午前試験80問の中から選ばれていて、テクノロジー系17問(57%)、マネジメント系5問(17%)、ストラテジ系8問(26%)という出題比率です。

午前I試験には免除制度がありますが、高度試験の約4~5割の人が午前I試験から受験しています。この中で60点以上の得点で午前II試験の採点に進む人は5~6割で、出題範囲が広いので試験問題を難しく感じる人がかなり多いといえます。難しい問題が多いときには4割程度の人しか通過できないときもあったので、最初の午前I試験でつまづかないように、早めに試験対策の学習を始め、確実に知識をつけていく必要があります。

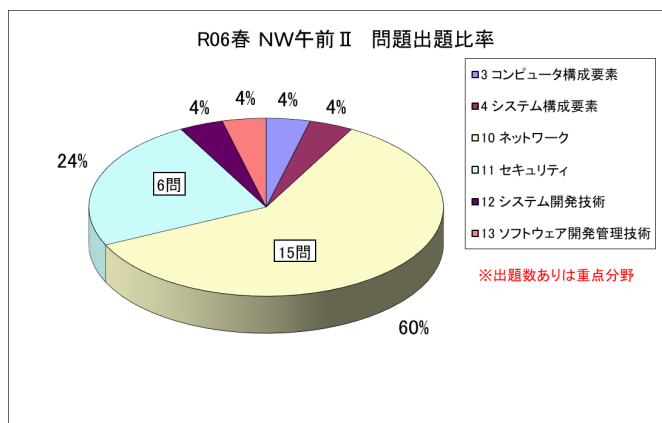


- ・今回の午前Ⅰ試験の内容は、約6割が過去問題でしたが、定番といえる問題が増え、前回より解きやすかったといえます。
- ・重点的に出題されるセキュリティ分野の出題数は前回と同じ4問で、最も多い出題数です。
- ・新傾向問題は4問で前回の5問と大きく変わっていません。

〔午前Ⅱ試験（専門知識問題）〕 25 問出題／25 問解答， 40 分

午前Ⅱ試験で、ネットワークとセキュリティの専門知識の出題数は15問と6問の合計21問で、前回と同じでした。新傾向問題は6問（前回は7問）、過去問題は従来と同じで約7割弱ありましたが平易な問題が多く、新傾向問題も多くなかったことから、全体として前回より解きやすかったといえます。

過去のネットワークスペシャリスト試験問題の出題は13問（前回12問）ありましたが、R4年の問題が4問と最多で、他は年度が分散していました。2回前・3回前の過去問題は重点的に理解しておく必要があります。



〔午後Ⅰ試験（記述式）〕 3 問出題／2 問解答， 90 分

今回の午後Ⅰ問題の概要として、新しい技術に着目した問題よりも、従来から出題されている技術項目を中心とした出題でした。問1はBGPの経路選択アルゴリズムとセキュリティ対策について、問2はOSPFとBGPについて、問3はUTMのIPsec VPN機能について理解が必要な問題でしたが、特に難しいといえる問題はありませんでした。他試験と比べて問ごとの設問数が多いので、幅広く専門知識を理解する必要があります。

〔午後Ⅱ試験（記述式）〕 2 問出題／1 問解答， 120 分

今回の午後Ⅱ問題の内容は、問1（11ページ）がVXLANを用いた仮想化技術、OSPF、VTEP（VXLAN Tunnel End Point）の動作、EVPN（Ethernet VPN）やMP-BGP（Multiprotocol Extensions for BGP-4）について理解が必要で、問2（10ページ）は、迷惑メール対策を中心とした電子メールのセキュリティに特化した問題で、SPFやDKIMなどの送信ドメイン認証技術について理解が必要な問題でした。問題文の記述が略語を多用した説明になっていることが多いので、まず、問題の全体像を的確に把握していくことが必要になります。